

花頭窓

この鐘型の窓は、もともと禅宗の寺院の特徴であった。13 世紀、禅宗とともに中国から日本に伝わり、花頭窓と呼ばれるようになった。中国から伝わった禅宗建築は、やがて社会的な地位や 品格と結びつけられるようになった。16 世紀には、武士や大名が城や屋敷に「花頭窓」を設置するようになった。

松本城には、南東の郭と乾櫓の 4 階にそれぞれ 1 基ずつ、計 2 基の「花頭窓」がある。これらの門扉は、雨戸を閉めたときに雨水を外部に流すための雨どいを内蔵している。